第 15 回「NO WAR！八王子アクション」決議

いま南スーダンは、内戦状態にあり、1万人を超える子どもたちが、拉致され、少年兵として無理やり戦闘に参加させられています。もし自衛隊が南スーダンで武器を使用したら、少年兵にされた子どもたちや、一般住民が犠牲となり、自衛隊にも戦死者が出るでしょう。

憲法違反の安保法を発動し、自衛隊を南スーダンに送ることは絶対に許されません。

9月30日、安倍首相は所信表明演説で「自衛隊に心から敬意を表わそう」と呼びかけ、萩生田光一・内閣官房副長官の指示のもと、自民党議員が総立ちして拍手する異常な事態が発生しました。それは安保法による自衛隊の海外派兵を美化し、派兵に反対する議会や国民の批判を封じようとするものであり、立法・行政・司法の「三権分立」にも反する行為として厳しく抗議します。

沖縄では 2014 年の名護市長選挙から今年7月の参議院選挙に至る各種選挙で、新基地建設反対の「オール沖縄」が勝利し、県民の意思は明白です。しかし安倍政権は本土から機動隊と自衛隊大型ヘリまで動員して、ヘリパッド基地建設を強行し始めました。

これは沖縄の民意と地方自治を暴力的に踏みにじる国家権力による「沖縄差別」「沖縄いじめ」であり、私たちは沖縄を苦しめる「米軍新基地建設」に沖縄県民と共に断固反対します。

墜落事故の絶えない欠陥機「オスプレイ」が、2014 年7月から首都圏上空に飛来し始めました。米軍横田基地には 2017 年からオスプレイが配備されることになり、既に駐機場が完成し、格納庫の改修も進められています。横田基地へのオスプレイ配備は、市民のくらしを脅かし、いつ頭上に重大事故が降ってくるかも知れない危険なものであり、絶対に受け入れることはできません。

憲法「9条」は、3年続けてノーベル平和賞にノミネートされ、平和を求める世界の尊敬と信頼を集めています。なぜなら「戦争放棄と軍備及び交戦権の否認」を掲げている憲法9条こそが、21 世紀のいま、泥沼化した国際紛争を解決できる唯一の羅針盤だからです。

日本が果たすべき国際貢献とは、戦争に参加することではなく、憲法9条を掲げ、国際紛争解決のための平和的外交努力の先頭に立つことです。

しかし安倍政権は、選挙中は憲法改正の意図を隠して国民をだまし、選挙が終わるや否や9条を壊す憲法改正に取り掛ろうとしています。

私たちは安倍政権による、いかなる憲法改正にも反対し、憲法9条を守り抜く決意です。

私たち八王子市民は、以下のことを政府と国会に強く申し入れます。

1. 「南スーダン」に自衛隊を送らないこと。
2. 「安保法制」は憲法違反の法律であり、速やかに廃止すること。
3. 沖縄県民の意思を踏みにじり、沖縄県民に苦しみを押し付ける「米軍基地建設」を直ちに中止すること。
4. 米軍横田基地への「オスプレイ配備計画」を中止させること。
5. 憲法９条を厳格に守り、日本国憲法を全面的に生かす政治を行うこと。

2016 年 10 月 16 日　第 15 回「NO WAR！八王子アクション」参加者一同

「戦争をさせない八王子市民集会実行委員会」